

農地利用最適化推進委員・自らによる応募

氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	認定農業者の状況	応募の理由	農業委員への 応募の有無	対象 地区
川崎 正義	男	74	農業	福祉評議員会評議員 中村地区区長 農業委員	水稲 90a 飼料用稲 110a (表作:WCS) (裏作:イタリアン)	認定農業者ではない	現段階の各地域の農業に対する実態を見ますと、将来が危ぶまれる状況とも云えます。先づは農家の高齢化が進み続けて、担い手の減少で農地の利用が困難に至り遊休農地・耕作放棄地そして非農地証明の発生が進む現状、この様な実態を少しでも解消しなくてはと思ひ地域農業活性化を図りたいと考え関係機関、農業委員会・農業委員として農業発展へ携わっていきたいと応募致しました。	有	加草
松本 邦彦	男	77	農業	・現農地利用最適化推進委員 ・五十鈴土地改良組合副理事	稲作 50a 畑作 5a	認定農業者ではない	中山間地域の田畑の放棄地並びに遊休農地の解消に懸命に活動したい。	無	川内
白木 洋	男	77	農業	昭和36年3月：県立富島高等学校 農業科卒業、農業に従事し、宮崎 県SAP連合会に入会、農業後継者 育成活動を行う。 昭和49年4月：国土交通大臣認定 九州測量専門学校入校 昭和50年3月：同校卒業 昭和50年4月：(資)佐藤測量設 計事務所入社 昭和55年6月：(有)白木測量設 計事務所設立 以後、測量会社を営みながら農業 に従事し現在に至る。	40a 田 早期水稲 及び普通水稲	認定農業者ではない	本町の農業は農地利用の在り方の見直しが喫緊の課題だ。課題解決に向けてもう少し皆さんと勉強がしてみたい。	有	門川尾末
黒木 稔	男	66	農林業	S.47.高鍋農業高校卒業 H.13.耳川広域森林組合門川理事 (H.18.退任) H.19.農地・水・環境対策事業 「五輪の里づくり」代表 (H.23. 退任) H.28.三ヶ瀬生産森林組合組合長 (H.30.退任) H.29.7月 門川町農業委員	山林 53ha 田 150a (貸付田50a)	認定農業者ではない	※少子高齢化による農地の荒廃 ※請負耕作への移行、説明指導を行いたい。	有	川内

農地利用最適化推進委員・自らによる応募

氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	認定農業者の状況	応募の理由	農業委員への 応募の有無	対象 地区
染田 通明	男	72	農業	国鉄・関西鉄道学園高等課程卒 延岡第2高校卒 和田病院介護施設介護職 故、母の農業を手伝い、平成23年 ～本格農業の勉強を始め従事する	早期水稲 65a 早期WCS 41a 普通水稲 32a	認定農業者ではない	農業も道半ばですが、今迄の勉強と実務において 着実に結果をも成果も得て来ており、諸先輩に少 しでも恩返しが出来つつあります、課題多き農業 にも積極的に取り組み、新規就農者も育て来季よ りスタート、又各界企業等のニーズにも足を運 び、新たな目標方向性も見定め、門川の農業発展 と農業者が夢と展望がもてるよう、さらなる努力 をと思い応募しました。	有	加草
兒玉 道治	男	68	農業	S.44.3 富島高校 普通科卒業 H.25.7 株 日産サテイオ宮崎 退社 H.29.7 農業委員～	稲作(390a)加工用米160a 含み 野菜(30a)早期水稲の裏作活 用 ●ブロッコリー、プチベール、 カリフラワー、カリフラワー、 他玉ねぎ	認定農業者	稲作農家として水田を守り、後継者、次世代へ受 け継ぐ放棄地を発生させない鳥獣害の進入を防 ぐ。そのためには農地を守る特に山間地、山際の 田、畑の耕作先に水田の作付を粘り強く続けてい くことが重要であると考え農地情報収集、利用調 整、活用相談などに関わりたくそして農家との距 離を座談会にて解消、又定例会、委員としてほか にやるべきことも提案、改善したく応募いたしま す。	有	門川尾末
幸森 秀樹	男	67	農業	県立高等営農研修所 機械専攻科 卒業 <昭和46年> 日向農業協同組合事務(金融、営 農、経済各部署勤務、42年間) 現、農業 資格 農業機械整備1級 農業機械職業訓練指導員免許	水稲栽培(早期20a、中期80 a、モチ米30a)130a	認定農業者ではない	現在上井野水利組合の会計をしています。20年 余り小学校の米栽培の手伝いもしてきました。今 では、地権者からの耕作依頼も毎年有ります。放 棄地等の問題もありますが、地域全体で協力し、 皆でこのような事態にならないような取り組みを したく応募しました。 高齢者等の農機事故も増加していますが、指導員 資格を生かし事故啓発にも努めたいと思っていま す。	有	川内
安田 初美	男	66	農業	現農業委員 西門川神舞地区NOSA1部長	普通水稲栽培(70a) しいたけ栽培(年間6～7万個植 菌)	認定農業者ではない	農業従事者の高齢化、担い手不足等により山間部 を中心に耕作放棄地があちらこちらで見受けられ るようになり増加傾向で、労働力不足は深刻な問 題の一つです。そこで私は、1期3年間の農業委 員としての経験を活かしながら、農地中間管理事 業等を活用してやる気のある農業担い手を発掘 し、更に農地を集約させ農地を守る環境づくりを 推進するため。	有	川内

農地利用最適化推進委員・自らによる応募

氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	認定農業者の状況	応募の理由	農業委員への 応募の有無	対象 地区
安田 元信	男	62	農業	昭和52年4月より日向農業協同組合入組 平成29年3月定年退職 平成29年4月より農業に従事 平成29年4月より農地利用最適化推進委員 平成31年4月より上井野里づくり組合長 平成31年4月より上井野地区環境保全活動組織代表者	水稲 420a（主食用285a・ 飼料米135a） 自然薯 20a 椎茸 1000本	認定農業者	担い手への農地の集積、遊休農地の発生防止・解消、新規就農の促進のために働きたい。	有	門川尾末
松田 富男	男	71	農業	昭和39年門川町西門川中学校卒業 昭和39年東洋紡入社 昭和43年大阪府守口高校卒業 昭和48年東洋紡退社 昭和52年帰省 茶の製造 昭和60年イチゴの栽培	茶畑 27a イチゴ畑 22a	認定農業者ではない	農業については全国的に見れば大型化傾向にあると思うが町内においてもトマト等が盛んになって来た。しかし山間部においては高齢化が進み田畑のあれはてるようす。若者もいない状況等について勉強し、議論していきたい。そして守ってきたい。	有	川内